

行為の故意性、意図性		加害の子供の集団性		一人で	集団で
1 好意で行った言動 ～親切のつもりが…～		ゼロ		○ 発言の苦手な子供に、「〇〇さんも意見を言いなよ。」と強く促した。	◆ 親切さを十分に評価した上で、発言が苦手な子の気持ちについて、一緒に考える。
				○ リレーでバトンを落とした子供に「何やってんだ！」と怒鳴った。	◆ 発達の特徴なども踏まえ、何気ない言葉が相手を傷付けることもあることを丁寧に論ずる。
2 意図せずに行った言動 ～悪気はなかったのに…～				○ うっかりぶつかった子供に「死ねよ。」と言い、にらんだ。	◆ 絶対に使ってはいけない言葉について指導する。
				○ うっかりぶつかった子供に対して、その場で殴りかかった。 ※ 事例によっては犯罪に該当	◆ 暴力は絶対に許されないことを指導するとともに、かっとなったときの対処方法を身に付けさせる。
3 衝動的に行った言動 ～つい、かっとなって…～	暴力を伴わない			① 運動の苦手な子供に、「あなたのせいで負けたの分かってるの！」と問い詰めた。	◆ 発言の背景となっている思いを開き取った上で、他人の失敗を責めることの問題について理解させる。
	暴力を伴う			② 運動で失敗するたびに、「へばい！」「足引っ張るな！」などはやし立てた。	◆ 絶対に許されない行為であることを理解させ、完全に行われなくなるまで、監督を徹底する。
4 故意で行った言動 ～あの子がむかつく～	暴力を伴わない			◆ 学校サポートチームと連携して、別室指導などを行い、二度と行わせないようにする。	③ 体育着を隠して、被害の子供が探している様子を笑って見ている。
	暴力を伴う			◆ 警察や児童相談所と連携して、厳しい指導を行い、直ちに行為をやめさせる。	④ 試合で負けたお詫びに、メンバー全員に1,000円ずつ払うよう強要した。
	暴力を伴う			◆ 警察と連携して、法令に基づく措置を含め、厳格な指導を行い、反省が確認されるまで、被害の子供と接触させない。	⑤ お金を持って来ないことを理由に、殴ったり、蹴ったりした。
継続性		単発的		継続的	

※ 上記の類型は、加害の子供の行為によるもので、被害の子供の「心身の苦痛」の軽重によるものではない。
 ※ どこからが犯罪に該当するかは、事例ごとに異なる。 ※ 「暴力」とは、言葉以外の有形力の行使全般を指す。